

令和4（2022）年度

地域学校協働活動推進員養成研修① 実施報告

実施日：令和4（2022）年6月15日（水）

本研修は、「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」事業の一環として行われます。地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。

説明・協議「地域学校協働活動推進員の役割」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課
社会教育主事 佐藤 正明

「教育環境を取り巻く状況」「社会の動向」「教育改革の動き」「地方創生の動き」から学校と地域が連携・協働する必要性を確認し、その効果について理解を深めました。その上で、地域学校協働活動を推進していくために、地域学校協働活動推進員がどう関わるべきか、その役割についての説明がありました。また、地域学校協働活動推進員としてどのような資質・能力を伸ばしていく必要があるかを確認し、学校と地域が目標や目的を共有していくことの重要性についても理解を深めました。



情報交換・協議「地域と学校をつなぐために」

栃木県総合教育センター職員



地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターとして持ちたい「視点」や「くせ（習慣）」について確認した後、県内でのネットワークづくりのため自己紹介カードを作成しました。受講者それぞれが、学校と地域の連携・協働のこれまでの振り返り、現在を見つめ、これからを思い描きながら、カードにその思いを記入していました。その後、記入したカードの内容を基に、近くの座席の受講者同士で情報交換を行いました。お互いの活動の充実のため、受講者は積極的に「知りたいこと」を質問しながら熱心にメモをとっていました。

講話「今、なぜ地域と学校の連携・協働が求められるのか」

文部科学省 国立教育政策研究所 総括研究官 志々田 まなみ 氏

地域学校協働活動の基本的な内容を押さえた上で、学校と地域の協働のあるべき姿についてお話いただきました。特に、地域学校協働活動は学校や家庭への支援だけではなく、学校・家庭・地域のそれぞれの教育的な役割と責任を自覚する取組にしていくことの必要性について説明がありました。また、取組事例などに受講者が活動する際のヒントとなる話題提供もあり、受講者の今後の活動の道標となりました。そして、子どもの成長を支える大人同士の横のつながりを深めることなどコーディネーターの存在とその役割の重要性について言及し、まとめとして地域学校協働活動を推進していくためのポイントをおさえました。

志々田氏のエネルギーあふれるお話は、受講者が学校と地域の連携・協働に取り組む大きな力となりました。





【受講者の感想から】

- 活動により、子どもの成長を支える大人どうしの横のつながりを深めることが大切であることが分かりました。
- 以前よりも学校と地域の関わりが重要視され、自分たちの役割も明確化し、改めて今後の協議会の在り方など、メンバーと共有すべきことが多いことが分かりました。
- 時代の変化も意識の変化も敏感に感じ取る必要があり、受け入れる余裕や柔軟性を持ちたいと思います。
- 地域から学校への一方向の支援でなく、協働することの大切さを学ぶことができました。
- コーディネートも毎回成功するわけではないという言葉に少し肩の荷が下りたような気がします。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp